

「椎の木」

—懐かしい思い出への架け橋、そしてこれから—

日本大学文理学部社会福祉学科 日大パレット

佐々木 絵美子、嶋田 あゆか、鈴木 彩乃、並木 理紗

(四季を感じる 多世代交流 地域の中での繋がり)

1. 目的

「椎の木」の活動を通して、特別養護老人ホーム「上北沢ホーム」の利用者の方や職員の方・サポーターの方と交流することや、参加者全員で四季を感じることを目的として、活動を行っている。また、利用者の方に心地よい時間を過ごしていただき、昔を思い出すような懐かしいひと時を味わっていただくことや、施設生活では難しい体験を学生と行うことなどを通して、利用者の方のQOLの向上を図ることを目的としている。さらに、これらの活動における協働・連携を通して、地域の中での繋がりをつくることを目的としている。

2. 実践内容

- (1)椎の木：民家に上北沢ホームの利用者の方を招待し、午後のひと時を参加者全員で楽しむ活動。
- (2)アトリエしいのみ：季節の草花の絵を上北沢ホームの利用者の方、職員の方、サポーターの方、学生が共に楽しみながら描く活動。
- (3)納涼祭：上北沢ホームで行われているお祭り。日大パレットは車椅子体験ブースを担当している。
- (4)桜麗祭：日本大学文理学部で行われている学園祭。大学内に上北沢ホームの利用者の方をお招きし、学園祭の雰囲気を味わっていただく活動。
- (5)オンライン会議での打ち合わせ：今後の活動の方向性について学生同士で話し合うと共に、近況報告も行っており、学生同士の交流の時間にもなっている。
- (6)季節感のあるスライドの作成：季節感のある写真を集めてスライドを作成し、上北沢ホームに送る活動。
- (7)動画企画：学生が考えた企画に沿って活動している様子を録画し、それを上北沢ホームに送る活動。

3. 結果

椎の木に参加していただいた利用者の方には夏の心太や秋の薩摩芋などの季節感を、実際に触れることや食事を通して感じていただいている。また、椎の木の活動は料理の仕方や日本の四季折々の行事を、利用者の方やサポーターの方から学生が学ぶことにも繋がっている。

アトリエしいのみは季節の草花を愛でることで外出することが難しい利用者の方に四季を少しでも味わっていただくことに繋がっている。

納涼祭は利用者の方とお祭りに遊びに来た地域の子もたちとの交流の場になっている。また、学生が地域住民と関わる機会にもなっている。車椅子体験については、車椅子を使ったことが無い方に対して車椅子の使い方を広めることや、車椅子を利用している方への理解にも役立っている。

桜麗祭は利用者の方に学祭という非日常を味わっていただくことに繋がっている。学内で行われてい

